

基本目標6 心豊かな文化の振興

1 身近に文化を感じる環境づくり

①「見る」から「楽しむ」「参加する」文化へ

優れた文化や芸術を楽しむことは、まさに生活の質の向上を実感する場面であり、県民が暮らしの中で文化に触れ、楽しむことができる風土を作ることが大切です。「勤勉でまじめ」と言われる福井県民が文化に関心を持ち、文化を楽しむようになるためには、身近に文化に触れ、参加できる機会を増やすことが必要です。

また、福井県は、古来、都に近かったこともあり、歴史や風土、人々の暮らしの中で育まれてきた有形・無形の文化財が数多く残っています。地域に伝わる祭りや行事、歴史的な建造物や街並み・景観等は、それ自体が固有の価値を有することはもちろん、地域への誇りや愛着を深め、地域の連帯感を一層強くする働きがあります。このような価値ある文化資源に対する認識を高め、後世に残していく活動を盛んにすることが必要です。

○身近に芸術を親しむ場の創設

公共施設や病院、ショッピングセンターなどでの作品展や演奏会の開催など美術や音楽等に身近に触れる機会を充実するほか、「ふくい県民総合文化祭」などにおいて、専門家の高い技を間近に見たり、気軽に体験したり、直接指導を受けることができる機会を拡充します。

また、若手の文化活動者の優れた企画について、多くの県民が気軽に鑑賞し体験できるように、実現に向けた支援を行います。

○身近な文化を見つめ直し後世に継承

今日まで残されている歴史的遺産や伝統的な祭り・芸能・行事、生活様式や景観、歴史的な習俗など地域の身近な伝統・文化を絶やすことなく、県民自らが後世に残す「風土記運動」を全県的に進めるとともに、このような活動に対して企業や行政が応援する仕組みをつくります。

また、民間、公共を問わず、県内で所有されている一級の美術品や歴史的遺産等を遺す「ふるさと遺産コレクション」の仕組みや、このような文化財の一斉展示・公開やそれらを巡る周遊ウォークの実施など、県民が福井の文化資源に集中的に触れる機会を創出します。

さらに、一乗谷朝倉氏遺跡や白山平泉寺など地域づくりの核となる文化財を集中的に整備するとともに、文化財や近代和風建築、越前焼等の伝統産業等の調査・研究を進めることによって、文化財としての価値を解明し、文化財指定を推進します。

○ふるさとの歴史・文化の研究

白山文化など特色あるテーマや平泉寺・一乗谷朝倉氏遺跡・吉崎御坊など、ふるさとの歴史・文化の研究を進め、ふるさとの歴史に対する県民の関心を高めます。

②文化施設をもっと身近に

地域の文化の中核拠点である美術館や博物館に、子どもからお年寄りまで幅広い層の方に足を運んでもらうためには、魅力的な企画や館蔵品の充実に努めるとともに、体験教室の充実やサービスの向上など、県民に愛着を感じていただく施設づくりが必要です。

県立美術館や県立歴史博物館は、ともに建築後約 30 年が経過し、一部で老朽化が進んでおり、展示機能の充実や利用者の利便性の向上を進める必要があります。

○住民参加型の企画運営

ボランティアの協力により、館内説明の充実や展示企画の充実を行うなど、住民参加型の企画運営を推進します。

○子どもの創造力を育む美術館

子どもたちの豊かな感性を育むため、県立美術館に子どもたちが見て、触れて、創造力を養う「キッズミュージアム」機能を新設します。

○福井ゆかりの人物や福井の歴史の発信

明治期に活躍した美術指導者である岡倉天心の研究を県立美術館で進め、2013年の生誕150年・没後100年のアニバーサリーに合わせて企画展を開催し、全国に発信します。

また、新たな福井の歴史ファンの拡大につながるように、県立歴史博物館等で本県ゆかりの人物や郷土の歴史をテーマにした企画展を開催します。

2 文化教育の推進

①文化教育の推進

子どもたちが文化活動に参加することは、自分自身の感性を磨いて自己形成したり、他者との共感を育みコミュニケーション能力を伸ばしたりすることを可能にします。

そのため、学校や家庭、地域において、子どもたちが文化活動に参加し、体験できる機会を提供することが必要です。

特に、文化芸術への志向は、子どもの時期の経験によって多くの部分が形作られることから、学校教育や地域活動の場において、本格的なオーケストラや一流の美術作品など、「本物」の文化芸術に触れる機会を提供し、子どもたちの興味・関心を育てることが必要です。

○すべての子どもたちが一級の芸術・文化に触れる機会を拡充

美術館や博物館、県立音楽堂などの文化施設と学校とが協働して、学芸員の出前セミナーや施設体験、芸術鑑賞などを組み合わせた文化教育を推進します。

現在、県では、県立音楽堂でのオーケストラ鑑賞や合同合唱と、美術館や博物館、こども歴史文化館等での実習体験を組み合わせた「ふれあい文化子どもスクール」を開催していますが、文化施設のネットワークをさらに強化し、このような取組みを継続して実施していきます。

○地域の文化活動家からの学び

地域には、音楽、美術、華道、茶道等文化芸術に精通し、高い技術や知識を持った活動家があります。このような人たちを学校や公民館などに招いて指導してもらうなど、子どもたちが文化芸術を学び、体験する機会を充実します。

②文化の創り手・演じ手の育成

文化活動の振興のためには、地域において、文化の継承や裾野の拡大に強い意欲を持って取り組み、先導していく活動者の存在が不可欠です。

しかし、県内の文化団体では、会員の減少や高齢化、活躍の場の不足などにより、活力の低下が進んでいます。

このため、これからの本県の文化を担う若手芸術家に活躍の場を提供することや、県外の芸術家等との交流を深めることなどを通して、本県の文化芸術活動を活力あるものにする必要があります。

また、音楽や美術等のそれぞれの分野において、高いレベルを目指す子どもたちに対して、専門的な指導を行うことによって感性や技術を磨き、次の世代の芸術家への成長を導くとともに、中・高校生の文化活動の中心である部活動でも、そうした機会を設けることが必要です。

○地域グループなど文化団体（活動者）の支援の充実

県内の若手活動者が中心となって行う創造的な文化芸術活動や、地域や文化団体の次世代育成のための事業を支援します。

○子どもたちの文化活動の質の向上

子どもたちが、中学・高等学校の部活動など様々な場面において、一流のアーティストから直接に指導を受けられる機会を充実します。

○次世代アーティストの育成

県立音楽堂と学校との連携による弦楽器奏者の育成や、県立美術館で美術作家を目指す学生を対象とした育成塾を開講するなど、文化施設が有する設備や人的ネットワークを活用したアーティストの育成を進めます。

3 「文字の国 福井」の推進

①「文字の国 福井」の推進

福井県は、文字や言葉をこれまで大事に扱ってきた土地柄です。江戸時代末期の橋曙覧や文学史上に名をとどめる三好達治や中野重治、高見順、則武三雄、伊藤柏翠など多くの作家、そして漢字の成り立ちを研究し独自の文字学体系を確立した白川静など、わが国の文字文化を先導する人材を輩出してきました。

書道においても、全国書壇で著名な書家を多く輩出するほか、児童生徒対象の書道コンクールには、毎年7万点にも及ぶ作品の応募があります。

このほか、かるたは、その競技人口の多さとともに、常に全国上位の成績を収めることで知られており、また、1993年にスタートした「一筆啓上賞」も応募総数が100万通を突破するなど手紙文化の復権に大きく貢献しています。

このように、先人が築いてきた「文字文化」を受け継ぎ、さらに将来にわたって発展させていくことが重要です。

○文字文化の普及

「白川文字学」を活用した本県独自の漢字教育をさらに充実し、アジアの共通の文化である「漢字」の県内外への普及を進めます。

また、本県で盛んな書道（書写）やかるたをさらに普及し、子どもたちが楽しみながら文字に触れる機会を充実します。

○県内外への発信

漢字教育の発表会や大学等と協働したシンポジウムの開催、本県の漢字教育をテーマにした書籍等の発行などを通して、「白川文字学」を本県の財産として進化させ、その成果等を全国に発信します。

○ゆかりの作家や詩人の作品に親しむ「ふるさと文学館」の整備

ふるさと福井にゆかりのある作家の作品を紹介したり、その功績を顕彰したりするなど、郷土の文学者の情報発信拠点となる「ふるさと文学館」機能を県立図書館に設置します。